

彙報

に於ける格の相異に依りて生ずる兩義的微妙關係等も克明にせられ Wechselwirkung を交錯的活動と譯し、differentie Object を離合的客觀と譯さるゝが如き、譯者苦心の一例を示すものによさぬ。縱令、思ひ間違へられ易い譯出がなくなるとは云へ、直接、誤譯と指摘さるべき如きものは殆どなく、漏譯、誤植も一、二を數へるにすぎず、前に現れたる二、三の譯書を凌ぐこと、單に後に現れたるもの、優越性を示すに止まるものでない。

原典のコンマ、プンクトが、勿論、邦譯の句讀點に相應してゐるわけでなく、( )、〔 〕、「 」、(一)、(二)、一、…符及邦譯黑色傍點は原典以外に、適宜譯者に依て多く入れられてゐる。！符の殆ど凡ては譯者のものでさへある。この些少な事實も、簡單に見逃さるべきでなく、譯者が譯出に際し自己否定的態度をとつたのでなく、自ら血を以て原典を辿つたものであることの證左となりうるであらう。

固、ヘーゲルの論理學は、思惟の單なる分析に依り思辨的に手繰り出だされたる如きものでなく、その基礎は歴史的現實の生ける實質である。譯者の序言の語ら如く「今、滔々として押寄せてゐる狂瀾怒濤の渦」に耳を蔽ふことなく、すゝんでこの渦中に身を措くもの、み、能く、ヘーゲル論理學のもつ「天才的なるもの」を過つことなく把みうるであらう。勝れたるこの譯書が繰り返へし、捲き返へし、今、この國に於て讀まれんことを願ふ。

(紹介者、箕實、岩波書店發行、定價參圓八拾錢)

哲學會公開講演會

十一月二十六日(土)法經第九教室に於て、午後一時半より

美の轉向とその課題 中井 正一君  
自由の問題 天野 貞祐君  
開會後本部樓上にて晚餐會を催す。遠來の先輩

多數來會、

哲學研究會

十二月十五日(木)學生集會所に於て 下村寅太郎君  
物理學の世界像

倫理學讀書會

十二月九日午後三時より和辻教授研究室に於て 蓮實 義倫君  
Fichte : Zweite Einleitung in die Wissenschaftslehre.

倫理學懇親會 十二月十六日午後六時より「島初」にて忘年會を催す

美學會

十二月二十日(水)藥友會館にて 土居 次義君  
山 雪

美學讀書會

十二月十六日(金)藥友會館にて 山田康一郎君  
文學の一二の問題—リードを中心として

心理學讀書會

十二月八日(木)教室に於て 岩井勝二郎君  
血液型について  
十二月十五日(木) 井口 榮君  
妊娠尿の注射による兔の卵巢の肉眼的變化

寄贈圖書

西洋人名辭典

無の自覺的限定

ヘン純粹認識の論理學

ルバント一般哲學史 第一卷

プラトーン、ブイレーボス

人間論

イデオロギー論

寄贈雜誌

哲學會雜誌

丁酉倫理講演集

社會學

哲學會

信濃校教

唯史學

社會學

報東利報

龜井高孝	野上豐一	石原純	岩波書店	西田波	岩波書店	後藤一房	第上一房	第上一房	土波孝	戶田春房	理想社
編輯	編	編	刊	刊	刊	刊	刊	刊	刊	刊	刊

十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號